

地方公共団体名: 愛媛県上島町

○提案内容

(1) 実現したい島のビジョン・方向性

○上島町概要

上島町は、愛媛県の北東端、広島県との県境で瀬戸内海のほぼ中央に位置し、上島諸島(弓削島、佐島、生名島、岩城島、赤穂根島等)及び魚島群島(魚島、高井神島等)から構成されている。海を隔てて広島県尾道市に接しており、生名島と尾道市因島との距離はわずか300mであり、生活圏としては主に因島側に属している。

気候は瀬戸内海特有の温暖な多照寡雨で、平均気温は15℃～16℃、年間降雨量は1,000mm前後で、冬期にもほとんど積雪はない。

上島町の人口は、昭和35年には約15,000人であったが、令和2年10月1日時点で6,510人となっており、過疎化・少子高齢化が進行している。

本町の産業について、上島諸島では近隣の造船関連産業の経緯から、造船業が主産業、魚島地区では地理的条件から、古くから漁業を主産業として発展してきた。

○島のビジョン

令和3年度末には、生名島と岩城島を結ぶ岩城橋が完成予定となっており、「ゆめしま海道」が全線開通するため、新たな交通体系や経済の流れ、人々の交流等、まちづくりに大きな変化を与えることが期待されている。この架橋効果を最大限に生かす施策を展開するとともに、民間企業が有する新技術等を導入することによって、離島地域特有の課題を解決し、町民が安心して快適に暮らし続けられるまちづくりを進めていく。



(2) 新技術の導入により解決したい離島の課題

課題の分類

○魚島地区における課題

岩城橋の開通により、合併前の4町村のうち、3町村が橋でつながり、利便性が大きく向上する一方で、魚島地区の利便性は依然として低い。同地区に橋を架けることはできないものの、次の2点を補う方法を示したい。

下記のうち、該当するものを○で囲んでください。

① 物流

・魚島地区では、漁協事務所の一部で日用品や食料品を扱っているものの、品揃え及び陳列量は十分であるとは言えず、町民によっては、弓削島のスーパーマーケットに行き、日用品等を購入し持ち帰るなど、大きな負担となっている。

・弓削島への交通手段は1日4便の町営旅客船のみであり、荒天時等の代替手段がないため、物流がストップしてしまうおそれがある。

交通・モビリティ
 ティ
 物流
 産業

② 医療

・上述のとおり、魚島地区への交通手段は、1日4便運航の町営旅客船のみで、荒天時に船舶が欠航した場合は、同地区の町民は孤立し、同地区に常駐している医師が島を離れている可能性もあることから、町民の不安を解消するため、継続的で安定した医療の確保が必要である。

・魚島には国民健康保険診療所、高井神島にはへき地出張診療所があるものの、人口減少等に伴い、診療所運営、へき地医療に携わる医師及び看護師の持続的な確保が困難であり、今後、当該診療所の運営に支障が出る可能性がある。

担い手確保・人材育成
 健康・医療
 教育
 観光
 環境
 エネルギー
 防災
 その他

○新型コロナウイルス感染症感染拡大の防止

上島町には町外と結ぶ航路が8つあり、1日に約200便が運航されている。町民が利用するのはもちろん、コロナ禍以前では約20万人の観光客が利用し本町を訪れていた。ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、大勢の観光客が来町した場合でも、町民が安心して生活できる、かつ、観光客も気兼ねなく観光を楽しむことができる環境をつくる必要がある。

(3) 新技術の導入による課題解決の方向性(イメージでも可)

○物 流

・ドローンやロボティックボード等を活用し、魚島地区へ日用品等を安定して配送できるサービスを確立したい。

○医 療

・魚島地区内に医師が不在の場合でも、継続的な医療の確保のため、町民が安心して診療を受けられる遠隔診療体制の構築が必要である。

・魚島地区の町民の多くは、島に常駐する医師や看護師による診察を希望しているが、へき地医療に携わる医師及び看護師の確保が非常に困難であるため、遠隔診療の仕組みを広く周知していく必要がある。

○新型コロナウイルス感染症感染拡大の防止

・各港へサーモグラフィー等を設置のうえ、発熱者など新型コロナウイルス感染の疑いのある者を判別し、注意喚起するなど、町内へウイルスの侵入を可能な限り防ぐことができるような仕組みを構築したい。

(4) その他

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
総務部 企画情報課	倉橋 宗大	0897-77-2500	kikaku-joho@town.kamijima.lg.jp